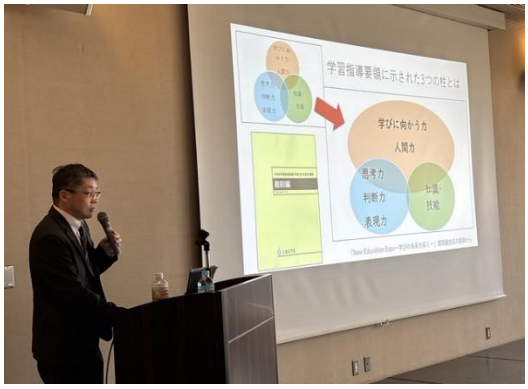
【研修Ⅱ】　「学校運営に参画する　学校事務職員をめざして
～学校事務職員のウェルビーイングをともに考える～」

研修の後半にあたる研修Ⅱでは、「学校運営に参画する　学校事務職員をめざして　～学校事務職員のウェルビーイングをともに考える～」と題した研修が行われました。講師として高松市総合教育センター　所長　真鍋康秀様をお迎えし、8 月に行われた四国大会での内容をさらに深めるご講話をいただきました。

まず、日本の学校教育において求められることの変化についてお話がありました。これからの子どもたちには、学びに向かう力や人間力がますます重要になっていくことが指摘されました。そのような状況の中で、学校事務職員としてどのように子どもの成長に貢献できるのかを考え直す機会となりました。



また、コミュニティ・スクールの観点から、地域との協働の重要性についても言及され、真鍋先生がかつて勤務されていた学校の取り組みを例に、チームとして取り組むこと、学校事務職員の役割についてお話がありました。電話対応や来客対応において地域との窓口になりやすい学校事務職員だからこそ、地域の課題解決や防災・危機管理の視点を持ち、信頼関係を気づくことが大切であると強調されました。地域の情報にアンテナを張り、積極的にコミュニケーションをとり寄り添うことが、円滑な連携につながることを学びました。

続いて、学校事務職員の人材育成について、事務職員協会の考えである、自分自身の成長のために出来ることを通して、他者や社会の成長につなげるという視点がとても重要であるということをお話いただきました。その中で自己分析のツールとして曼荼羅チャートをご紹介いただき、自分自身のウェルビーイングのためには何が必要か、そのために何が出来るかということを視覚的に分かりやすく捉えることが出来ました。また、同世代や別世代の学校事務職員と意見交換を行うことで、同じ項目でも視点やアプローチの仕方が違うということを学びました。

研修を通じて、学校事務職員のウェルビーイングの実現には、まず「自分が出来ること」を積極的に行動に移すこと、そして、子どもたちや教職員、地域社会のために楽しみながら貢献する姿勢が大切であることを学びました。学校事務職員としての役割を再認識し、今後の業務にどのように活かしていくかを考える有意義な機会となりました。